は当然のことであった。またこのバルカン一帯は永年いじめられていた傲慢なロシアに打ち勝った日本であるということで、日本人はとても歓迎され好意をもたれたものである。地中海沿岸の港には日章旗をヘンポンと翻している我が帝国軍艦の英姿が見られたもので、戦勝兵はからだこそ小さいがそれでも立派に力強さが現われていた。矢張り戦争には勝つべきだと深く感じた。

顧みるに私が生まれてからこのかた随分戦争が多かった、先づ明治二十七年の日清戦争に始まり、北清事変、続いて三十七年には日露戦争の勃発、四十三年には韓国併合、大正に入ってから第一次世界大戦、シベリア出兵、昭和になって満州事変、上海事変、支那事変、悉く連戦連勝ここまではどうやら成功した。ところが第二次世界大戦、続いて太平洋戦争（昭和十六年十二月八日ハワイ真珠湾奇襲）、そしてこんどは二十年八月広島と長崎に原爆を蒙り、遂に八月十五日の停戦布告となり万事窮し大敗を喫した。マッカーサー将軍の本土上陸となり、息の根を完全に止められたのである。そして満州、関東州、樺太、台湾を一挙に取り揚げられ、韓国は二分されたが日本からはなれて独立国になった。結局五十年間に貴重なる血と肉で奪い取った領土を一朝にして奮い去られ、またもとの極東の一小孤島の杢阿弥に帰してしまった。

正に敗者の悲惨なる姿である。私は前記日本が戦勝国としてのソフィヤに於て晴ればれとする優越感を味っていただけに日本に於けるマ将軍司令官のありかたは私としては人一倍深刻に身にこたえたのである。武装解除―新憲法―戦争放棄―平和保障実に絶体絶命である。二度と繰り返してはならない大悲劇である。

その二つのハップニングは今から思えば全く昔のお伽話か夢物語りみたいなものである。それはソフィアに滞在中馬淵大佐の紹介でブルガリア国のある代議士に会い何か鈴木商店としての仕事があらばと種々話を承った。その中にその代議士はトルコのケメルパシャと昵懇であり目下トルコでは国内闘争をやっている最中だが、ここ数年間トルコ産の亜片が輸出禁止になっていてエヂアン海岸の倉庫に莫大量のストックが充満している。同代議士は早速ケメルパシャに直接交渉して支那なり何処なりへの輸出許可を取ってあげるからコンスタンチノーブルへ行き戦線まで白旗を掲げつつ行けばそれから先はケメルパシャ軍に護衛され王宮にゲストとして歓待されるであろう。君のバルカンみやげとして立派なものであると誠に親切なお話、血の気の多かった当時の若い私、コ市に勇んで乗り込んだ次第、駅へ着くとコンマンダーヨシダと大声でどなっている。私は早速ホテルに案内された。当時は話に聞いていた通り市内一帯物情騒然銃声がホテルからきこえていた。然るところ驚いたのはコ市の日本大使館から連絡があり私がケメルパシャに会いに行くとの情報が已に入っており、幾度も執拗に思い止まるよう強い要請であった。私も冷静に熟慮の末身の安全の保障もない儘、遂に残念ながら、ケメルパシャとの折角の会見の壮挙（？）を思い止まったのである。今にしてこのことを思い浮べて身の引き締るのを感じる。もし強行していたなら果してどんな結果になっていただろうか。銃弾に当って斃れていたか、それとも私の一生を一変するような大展開を招来したか、スリリングな話題を残すようなことになったかも知れない。ルーマニアのブカレストへも足をのばす予定であったが相憎くここもロシアとの争いで黒海方面政情不安のため取り止めにした。

斯くして私は大正十二年七月神戸本店（海岸ビル）に帰任した。九月一日の大震災の一大惨事が勃発、直ちに帝都復興院（後藤新平総裁）が急設せられ、英米カナダより木材鉄板類を緊急救済物資として大量に調達輸入することとなり、その仕事のお手伝いに嘱託として一ケ年許り御奉公した。

そのあと神戸本店雑品部に復帰し鈴木商店が米国のリッチフィールド石油会社の日本総代理店として話がまとまった直後、即ち昭和二年春に鈴木商店が閉鎖の大悲劇に突入したのである。誠に悲憤の極みでこんな口惜しいことはない。何年経っても拭い去ることの出来ない深手であることは私だけではないと信ずる。それから私は神戸製鋼所代理販売部を経て日商株式会社に入り、リッチフィールド及びユニオン石油会社のバックを足場として私の第二の人生というべき多彩な石油時代となったのである。

最後に曽てロンドンに在勤していたもの相集まり高畑御夫妻を中心にしてロンドン会を結成した。その第一回を昭和三十四年十一月二十五日東京で開催、小金井でゴルフ、夜は赤坂の赤坂飯店で小宴、誠に楽しい一日を過した。引き続き毎年東京と関西で交互に開催いつも高畑御夫妻を囲み懇談に花を咲かせお互いの健康を乾盃し合った。しかしなんといっても五十年の経過がある関係で、その間に作道、三浦、内山、間室、織田、今城、中川の皆さんを失った。謹んで皆さんの冥福を祈ります。その他の皆さんは今尚健在、ゴルフもやり、アッペタイトも旺盛、この分ならまだまだ大丈夫、御長寿を祈ります。最近の会合は四十四年九月二十一日に六甲山上の六甲ホテルに於て開催、高畑御夫妻は至極御気嫌麗しく御健在、盛会裡に相互の健康を祝し合い再会を約して山を下りた。当日の出席者は高畑御夫妻、辻村、樽谷、助野、松岡、宮口、三宅、中川夫人、吉田、瀬脇、相原、安永、小野、益子、鈴木、木村の皆さんであった。

茲に末筆ではありますが、先ず高畑御夫妻の御健勝を祈り、併せて鈴木家、金子、西川、柳田各家御一統様と辰巳会各位の御隆昌と御長寿を祈念する次第であります。尚ロンドン会開催毎に高畑御夫妻から物心共に暖かき御高配と御援助を頂き、その御芳志に対し一同深謝致しておる次第で、ここに申し添えさせて頂きます。（昭和四十五年四月記）

（明治二十五年生）

落合さんと麦粉部

秋元鷹男

今秋は落合豊一さんの十三回忌に当りますので、爰に一文を草して故人を偲び、又故人と共に在職した麦粉部の事どもを書き添え度いと思います。

「入社当時の麦粉部」

私の鈴木入社は大正八年の春でした。一次大戦は前年秋に停戦となり、早くも船舶、鉄材、薬品などが大きく値下りしましたが、八年に入ると再び戦時以上のブームが興って九年の春迄続いて居ります。

宇治川の本店仮事務所は玄関左手大広間の中央通路を挾んで東側に米油、雑穀、樟脳、積出、雑貨、麦粉そして西側に満州、燐寸、冶金、木材、鉄材などの机がずらりと並び、人の出入が激しく、活気に充ち充ちて壮観でした。

私の配属された麦粉部は主任が篠原正次さん、内地係が岡本弘紀、真鼻貞吉、佐脇静夫、冨川頴、中安頴治の諸氏、それに外国係が中川宇市氏と私と云った小人数でした。

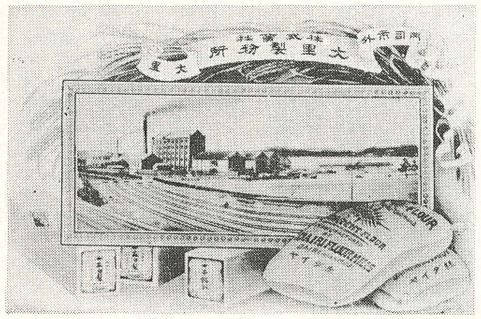
篠原さんは一見物静ですが鹿児島特有の激しい気象の人でした。鋭い洞察力、強い実行力、確乎りした統卒力を備え、肚が据って、大きな仕事を成すに適しい非常に優れた人物でした。小柄な痩軀、寡黙、冷徹、古武士に似て冒し難い威厳がありました。持病の神経痛に悩み、厚手のシャツを着込み、特製の大回転椅子に仰向き加減に背をもたせ、膝を毛布にくるんで、時にパイプを薫らし時に瞑目し考えに耽っている姿をよく見掛けました。

もともと鈴木は大里製粉所を直営して、麦粉の国内取引では一方の雄でありました。それで私の入社する前年と前々年に大量の内地麦粉を欧州へ向けて輸出し大きな利盛を挙げていました。

引続き八年も戦後景気で麦粉の内地商売は非常に活気を呈して居りました。之に反し外国小麦は産地品薄で、僅かに豪州から二等品数万屯を輸入したに過ぎません。二等品と云っても名ばかりで黴臭い虫喰の古小麦が主でした。

「対欧輸出始まる」

その頃食糧不足の欧州へ極東から米、油、大豆などが盛に輸出されて居ましたが、九年の春、遅播乍ら満州小麦に順番が廻って来ました。高畑さん指揮の倫敦支店の大活躍によって大量の注文が取れたのに呼応して大連支店では沢本嘉春、田中実の諸氏が活発に小麦の買附を進め、大連港へ差向けた帝国、国際、川崎など八千屯級の貨物船四十数艘に満載

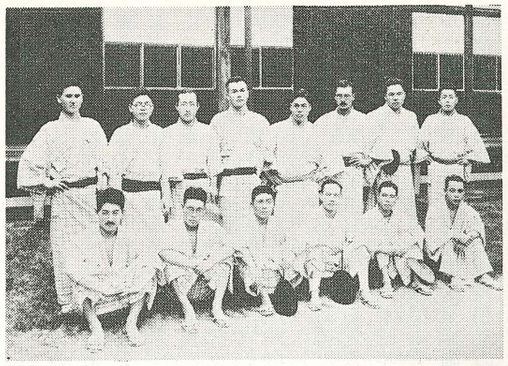


大里製粉所のえはがき

して九年初夏から十一ケ月に亘り欧州に向けて積出した数量が累計三六万屯に達し、莫大な利益を挙げた事は田中実氏によって「たつみ」六号に詳述された通りです。

又上海支店伊藤覚平氏の買付た上海粉を数万屯欧州に積出して居り、前記内地粉に始まる満州小麦、上海粉一連の輸出はその頃としては非常な大仕事でありました。

大連から盛に小麦の輸出を行なっている最中に国内では戦時戦後景気の大反動が起って居りました。株や商品が凄じく暴落し、その煽りで茂木、湯浅など有力商社が多数倒れると云う大混乱が生じました。鈴木も系列下の諸事業もこの時大きな傷手を受けたのですが、一応この危機を乗り切ることが出来たのでした。従ってわれわれは大船に乗った気持で、この大変動が因となって後日鈴木が倒れようとは夢想もせなかったのです。



大正十一年夏

宮地重喜　伊藤覚平
太田武城　森　勝
斉藤　篠原正次
落合豊一
岡本弘紀　亀井盛一
秋元鷹男　中川宇市
佐脇静夫　田中四郎
浦上　貢

「小麦の輸入急増」

十年に入ると欧州の食糧事情が緩和したので極東からの輸出は下火となりました。替って大きな輸出余力の生じた合衆国、加奈陀、豪州から良質廉価な小麦の輸入が可能となりました。是迄原料の九割を国産小麦に依存していた我国製粉工場は、外国小麦の利点を認め使用を多くしたので、戦前約十万屯に過ぎなかった輸入量が四〇万乃至七〇万屯と大巾に跳ね上りました。

鈴木は九年に大里製粉所を日粉に売却してその大株主となった関係もあり、日粉の輸入を一手に引受けた上、日清、増田、松本などの有力会社からも大量の註文をとったので、小麦の輸入では一躍して圧倒的大手となり年間扱高三〇万乃至四〇万屯に達しました。

日粉への売込は東京支店池上武顕、田中信吾、名古屋地区工場へは亀井盛一の諸氏が窓口となりました。産地での買付はポートランドの落合豊一、島崎龍雄、桑港の中良之助、メルボルンの田井駒吉諸氏がその衝に当り、船腹の獲得には船腹部の宮尾亮三氏の強い協力を得ました。

「落合さんを麦粉部に迎える」

輸入小麦で一番量の多かったのはポートランドを通じて買付た北米小麦と加奈陀小麦でした。落合さんは六年入社、その秋シアトル店に赴任し、日本向小麦及び木材の取引が急増するに及び隣接のポートランドに店を開き本拠を移しました。此頃から本店と落合さんとの交信が日を追って頻繁となりました。

落合さんの機敏にして巧妙な買付は美事でありましたし、又相場の先見透について適時に理路整然として適切な意見が打電されて来たのに感心しました。落合さんが細部を緻密に見究め、然かもしっかりと大局を把握して誤らない細心大胆なる資性の持主であった事が、全ての仕事の面で適確な判断を生み、その力強い実行力と相俟って立派な成果となったのだと思います。

十一年夏落合さんを本店麦粉部に迎えました。親しく落合さんに接してその人物の偉大さと識見の卓越さに一層敬服しました。爾後閉店に至る迄机を並べて共に憂へ共に楽しんだのでありますが、物の見方、考へ方など私の人間形成の上に於て落合さんによって大きな啓発を受けた事を感謝せずには居れません。

入社当時十人足らずであった麦粉部は落合さん豪州担当の田井さん、両氏を補佐する私、山田恒雄、田中四郎、西川政一、清水正敏、坪田そして内地係に岡本、真鼻、佐脇、宮地、重喜、中安、小倉五郎、三宅、河合勉諸氏と云う大世帯となっていました。中川宇市氏は田井氏と入替りに冨川氏を伴い豪州に赴任していました。

着任した落合さんは篠原さんのブレーンとして活潑に献策を続け、篠原さんが本店副支配人を兼務して多忙となってからは代って部の実務を取仕切りました。

「三国間貿易の推進」

落合さんは急増する小麦の対日輸入の商売に力を注ぐと同時に、倫敦の三浦玄二氏と呼応し、ポートランドの島崎、桑港の中、紐育の松尾守一、豪州の中川、上海の伊藤の諸氏から成る国際チームによって小麦、唐黍などの三国間貿易を推進しました。倫敦、ポートランド、紐育から毎日の如く長文の電報が入り本店からの発電も加わって外国電信部を忙殺させました。

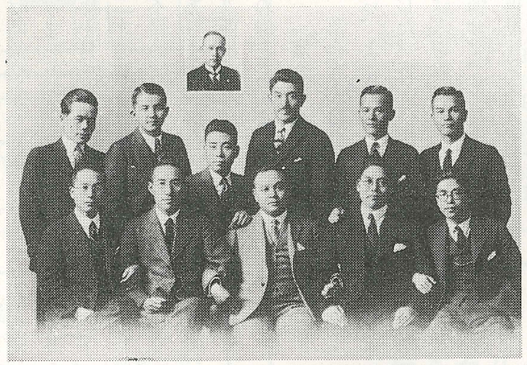
本店は是等の海外情報に基き時には見込を混えて三国間の売買を行ない又時には相場変動の保険繋にシカゴの小麦定期先物を売買することもありました。斯様にドレイファス、ブンゲなど世界有数の穀物商に伍して手広い活動を行ない、小麦の取引に関する限り三井、三菱を遙に凌駕して居りました。

小麦の相場は戦後繰返えし各国を襲った大不況の影響と小麦自体の豊凶の影響を受けて絶間なく大きく波動しました。此の相場変動の激しい商品を扱い乍ら概ね順調に推移したのは幸運と云わねばなりません。

「鈴木と日粉」

日商及び帝人社史を繙きますと日粉の窮状が鈴木行詰りのきっかけとなったと記されています。と申しますのは破綻の起る前年、日粉と鈴木が書き合っていた融手の期日に日粉が支払に窮したのが事の起りです。当時負債総額四億円を超えた鈴木の金融力を以ってすれば手形買戻に必要な八百万円の調達は差程難事ではなかった筈だと思われますが、既に借入に借入を重ねた鈴木に対し台銀は貸増を肯んぜず、日銀の救済融資が行なわれて辛くも急場を凌ぐことが出来ました。処が、日粉の窮況打開策として進められた日清との合併談が不調となり、日粉の不良内容が曝露され、日粉と深い関係にある鈴木の立場を不利にした事が鈴木の行詰りのきっかけとなったと云うのです。

麦粉部最大の顧客たる日粉の窮状が鈴木に累を及ぼした事は甚だ遺憾ですが、日粉の立場にも大いに酌量すべき情状のあった事を述べて置きましょう。第一、大正九年の大反動に手持原料及び製品が大巾に値下りし、又主要取引先安部幸及び平野商店の破産によって大きな損失を受けた事、第二に業績挽回を図り、有利な外麦使用に便利な臨海工場の新増設を行ない、他社を合併するなどの積極策を執りましたが、他社も同様の拡張を行なったので、国内製粉能力が急に過剰となり、販売競争が激化し、さなきだに慢性不況によって低落した麦粉市価を一層引下げる結果となりました。問題の十五年に業界は最悪の状態に陥り、大手七社が協定を結んで六割と云う大操短を断行せねばならなかった程でした。製品不当の安価、低率撰業による原価高、新増設資金に対する金利と減価償却の負担とが重って各社とも四苦八苦の経営となりました。第三に海外小麦相場と輸入為替相場の激動による損失が大きく加わったのですから遂に手詰りとなったのも己むを得なかったと思います。



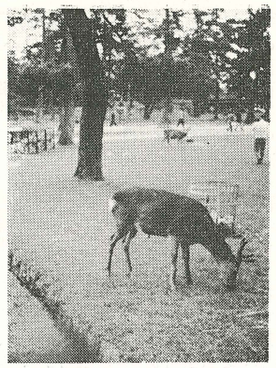
大正十五年秋

岡本弘紀　佐脇静夫
田井駒吉　落合豊一
田中四郎　三浦玄二
中川宇市
篠原正次　秋元鷹男
島崎竜雄
西川政一
冨川　穎

日粉の製品販売を主軸とする麦粉部内地取引は東京の田中、名古屋の亀井、大阪の広内、中村、神戸の岡本、真鼻、下関の太田武城、森勝の諸氏が機敏で手堅い活動を続けましたが、何と云っても低迷続きの市況の事ですから非常な苦戦を免れませんでした。

鈴木から日粉の役員に窪田駒吉、志水寅次郎、谷治之助、篠原正次、池上武顕の諸氏が名を列ねました。日清との合併が破談となった時、岩崎社長が引責辞職し窪田支店長が替って社長に就任しましたが幾許も無く鈴木が閉店となって、ライバル三井の手に経営が移ることになったのは残念な事です。

日粉はその後更生し、二次大戦後に隆々たる業績を挙げ日清と並んで我国製粉会社の双璧として健在であります。因に戦後パン食の普及によって麦粉の消費が激増し、小麦の輸入量は年間四百万屯と大正十年頃の十倍となって居ります。



▷奈良公園で

主祖讃歌

黄旗亭

雨けぶる青丹の寧楽に壇建ちて
　齊つきの庭に　集う家の子
諦教院釈尼芳淵位　観自在
　菩薩行深　鈴木よね刀自
御像に　御霊還り来給うらむか
　遠忌に侍べる子等みそないて
感更に深し母なる主祖の偉業
　三十三忌　おろがみ奉りて
断絶の「のれん」久しきかね辰の
　声とゞかばや　母なる主祖へ
「お家さん」と云う独特のニュアンスに
　イメージ強く　今生きてあり
母木なるうつろ根株の地に生きて
　群れ若木立　今天を衝く

「知友の離散」

鈴木の閉店と共に同僚知友は何時となく四散して行きました。

篠原さんは乞われて中川、島崎両氏と共に三菱商事に入社しましたが、暫くして逝くなり中川氏も逝くなりました。三浦、田井、岡本氏も他界し、冨川、山田、清水、坪田の諸氏については消息を聞きません。

金子さんの女婿田中四郎氏は学生相撲の横綱だったに似ず、虚子の俳句、斉藤茂吉の短歌を愛唱する文学青年であり、頭脳明晰、盾目秀麗、前途を嘱目された好漢でしたが、不幸にして北鮮での戦死が伝えられました。

「日商の落合さん」

日商が発足した時落合さんと西川政一さんの二人が神戸支店で仕事を始めましたが、日粉を失った今は小麦を扱うに由なく、麩、澱粉などの内地商売を細々と手掛ける状態でありました。然し幾許も無く澱粉では大手となり、澱粉加工の葡萄糖工場を北海道に新設する迄になりました。又ブンゲを通じて南米から唐黍を満船で輸入して半田の杉沼商店など飼糧工場に売込むなど目覚しい発展を続けたのは両氏の非凡な手腕、熱意と努力によるものであります。

昭和二十年落合さんは専務に就任して高畑会長、永井社長を援け戦争で疲弊した日商の再建に渾身の力を奮い、優れた商品企画と社内機構の強化を行ない着々その目的を達成した功績は真に偉大であります。

二十九年落合さんは永井社長の後任として社長に就任しました。会社は時流に乗って更に急速な発展を続けましたが、在職僅か四年、三十三年十月二日円熟した働き盛りの六十二才の若さで落合さんは忽然として不帰の客となりました。痛恨の極であります。落合さんの跡を小麦の同人西川さんが承け継いだのも尽きせぬ縁と云えましょう。

「落合さん見たまま」

落合さんは応揚な親分肌であり乍ら、よく気のつく人情家でもありました。野太い声、説得力の強い話振は人を魅了せずには措きません。人怖せず、上長に向って堂々と所信を披歴する所は立派でした。酒は和洋を問わず愛好し、酔至れば清元張の美声で自慢の長唄、清元、端唄を唄う陽気な酒でした。芝居好で、鈴木の頃同好の田井さん等と中座、南座文楽へよく出掛けたものです。

柔道の有段者でしたが他のスポーツは殆んどやらず、晩年ゴルフに熱中しましたが余り上達せずに終りました。

大きな頭、下ぶくれのえびす顔、濃い鬚の剃跡、巾広い肩、がっしりした短軀などが特徴でした。常に穏かな微笑を浮べ、悠揚迫らぬ大統卒者に適しい風丰も今は再び見るよすがもありません。

私も落合さんとは永年の附合で親身の指導を受けて参りましたのでその死は肉身の兄を失った様な衝撃でありました。

爰に落合さんの御冥福を祈ると共に早くも世を去った麦粉同人諸氏の御冥福を心から祈るものであります。

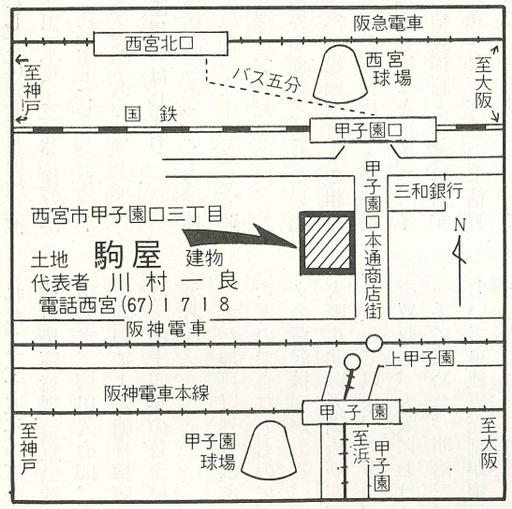
（四五・五・二二）

訃　沢村亮一氏

辰巳会発会以来、ことば通り十年一日の如く幹事の一員として会の為熱心に御尽力下さいましたのにもかかわらず、去る五月七日の大会の後二日目、病魔の冒すところとなり、七月二十日日正午薬石効無く惜しくも日赤病院にて急逝されました。謹んで哀悼の意を表します。享年八十五。

神鋼電機株式会社
代理店
山武ハネウエル株式会社
代理店
株式会社　鳥羽商店
代表取締役　村井順三
富山市赤江町 6-20
金沢出張所　金沢市西泉町イ-18

土地管理
東神興業株式会社
社長 鈴木治雄
神戸市生田区京町72　クレセントビル内
TEL ㉝ 3281



（問屋部門）特殊鋼.非鉄金属.合金鉄.製鋼原料
（製造販売部門）ホワイトメタル.半田.可熔合金.製鋼.工具機械加工
（貸ビル）（計量）（受託分析）
キンキメタル産業株式会社
取締役社長　堀内宏展
本社　大阪市福島区上福島中1丁目38の2　TEL 代表458-5961
東京営業所　東京都千代田区神田北乗物町12　TEL 代表252-0541
大阪工場　大阪市西淀川区佃町4丁目45　TEL 代表473-5031
熊谷工場　埼玉県熊谷市三ケ屋字女堀5408の1　TEL 代表 32-6811

営業品目
プロトン（一般豆腐用）プロトンA1（煉製品用）
ハイプロトン（即席豆腐用 給食用）プロトンA2（煉製品用 冷菓用）
プロトンM（豆乳用）プロトンA3（煉製品用）
プロトンミート（各種食品用）
日本タンパク工業株式会社
取締役社長　長谷川光雄
東京都小平市川東町1920番地1
電話小平（0423）41—0831代表

ケミカルタンカー
国華産業株式会社
取締役社長　煙石隼人
本社　大阪市北区堂島浜通1丁目63番地
TEL 362-5626（代）